



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/7 (月)	+ 600	+ 3,200	+ 3,800	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 社債等買入 300 ▲100		日：景気先行CI指数 (7月) 欧：ユーロ圏GDP (2Q)
9/8 (火)	トン	+ 2,000	+ 2,000				日：GDP (2Q) 国際収支 (7月) 貿易収支 (7月)
9/9 (水)	トン	▲ 36,000	▲ 36,000	国債発行 (5年)			欧：ECB政策委員会 (1日目)
9/10 (木)	+ 500	+ 3,000	+ 3,500	国庫短期証券発行償還 (6M)			日：増日銀審議委員が福井県金融経済懇談会に出席 米：PPI (8月) 欧：ECB政策委員会 (2日目)
9/11 (金)	トン	▲ 11,000	▲ 11,000	流動性供給			米：CPI (8月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比100億円増加の424兆3,800億円から始まった。その後、国債発行や各種税揚げ、普通交付税の払い等の要因により増減し、4日は415兆8,300億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.977%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。

ターム物は1W～3W物0.981%～1.20%のレンジ、1M～3M物1.18%～1.62%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では8日にGDP (2Q) の公表、10日に日銀の増審議委員が福井県金融経済懇談会で記者会見、海外では7日にユーロ圏GDP (2Q) の公表、9日～10日にECB政策委員会の開催などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.950 ～ 0.978
1M	1.25 ～ 1.35
2M	1.35 ～ 1.40
3M	1.35 ～ 1.45
6M	1.60 ～ 1.75

<レボ>

足許GCは週を通して1.000%～1.005%の狭いレンジでの出合いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年484～486回債、5年180～187回債、10年361～372、379～383回債、20年194～197回債、30年87～91回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.90台
CP 3M (a-1+)	1.3～1.4台

<CP>

今週の入札発行総額は1兆1,870億円で、週間償還額の1兆2,410億円を下回った。発行残高は、先週末時点の25兆4,873億円から、9月3日時点で25兆7,050億円へと増加した。発行市場では、石油製品・卸売業・建設業をはじめとする一部の業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.1%台から1.2%台、3ヶ月物で1.3%台から1.4%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約2兆400億円となっている。発行市場は、一部の企業で中間期末の有利子負債圧縮を踏まえた発行抑制が想定されるものの、5・10日に絡めた相応の発行が見込まれる。発行レートについては、日本銀行による利上げ継続姿勢が示されていることから、水準を探る展開が続くだろう。

<TDB>

4日の3M (第1404回債) の入札は、最高落札利回り1.1181% (前回債1.0858%)、平均落札利回り1.1076% (前回債1.0794%) となった。来週の入札は9日に6M、11日に3Mが予定されている。